

在宅高齢者の虐待防止ケアマネジメント

事例募集 ご協力をお願い

平成 18 年度から「高齢者虐待防止、高齢者の擁護者に対する支援に関する法律」が施行されてから 2 年、虐待防止のための活動に、全国の地域包括支援センターが窓口となり、また居宅の介護支援専門員等が関わるが増えています。現実のケースは、心理的・身体的・社会的・経済的な問題が複雑にからみあって深刻な状況も多く、どう介入したらいいのか戸惑っている現状も明らかになってきました。

今回「高齢者の虐待防止ケアマネジメント事例集作成及びケアプラン研修事業」の一環として、高齢者の虐待に取り組み改善した事例を広く募集します。ご応募いただいた中から事例集を作成して虐待を予防・対応するための、ケアマネジャーへの研修を行う計画です。

この機会にぜひ、あなたの貴重なご経験について、ご応募をお待ちしています。尚、この事例集作成に関して独立行政法人福祉医療機構（WAM）の長寿福祉基金からの助成をうけ実施しております。

対象

全国の地域包括支援センター、介護支援専門員その他、高齢者の虐待対応およびその防止に取り組みを進めている、機関あるいは個人

募集締め切り

2008 年 9 月 20 日まで

応募書類と返送方法

応募用紙(別紙)は、記入者、事例、施設の体制、の 3 部に分かれています。

ご記入のうえ、メール、ファクシミリ、郵送のいずれかの方法で送ってください。

応募先 事務局

NPO 渋谷介護サポートセンター 瀧瀬(こうけつ)

E-mail : npo@shibuyakaigo.com Fax03-3469-4388 東京都渋谷区松濤 1-1-3 松濤栄光ビル 4 階

成功事例のイメージについて

在宅高齢者の虐待防止において何が“成功”なのか、判断が難しいところですが、本調査では以下のようなイメージで、事例を募集します。「事例集」作成にあたり、ご応募の中から成功事例を、ご本人承諾の上で掲載させていただくことがあります。

なお記入にあたっては、記入したあなたご自身の経験やご意見として、記載をお願いします。

- 1 そのままではいけない状態を、見過ごさない、関わることができた
- 2 それ以上のエスカレートは防ぐことができた
- 3 支援チームを立ち上げ、協力・共感や社会的なネットワークが機能することができた
- 4 一時保護で対応することができた
- 5 心理的・身体的・社会的・経済的な問題を、落ち着かせることができた
- 6 虐待を解消することができた
- 7 関わる中で、擁護者(虐待を行う側)の考えや態度を変容させることができた
- 8 成年後見制度や権利擁護(社会福祉協議会の日常生活自立支援事業サービス等)を導入して高齢者の権利を守った

秘密保持 個人情報保護

・応募書類は、事例の個人が特定できないように加工して使用します。

・また個人の特定につながる書類は、研究終了後にシュレッダー処理を行います。

応募書類およびヒアリングでの情報収集を基に文書化し「報告書」「事例集」等での公表に際しては、個人が特定できないものに加工し、かつ事例提供者の了解を得た後で行ないます。

在宅高齢者の虐待防止ケアマネジメント対応事例 応募用紙

以下の各質問について、該当する選択肢または数字を で囲み、() や ___ に記入してください

事例を記入された方について

お名前 _____

職種：あなたが在宅高齢者の虐待に取り組むときの資格すべてに をつけてください

- 1 介護支援専門員 2 訪問看護師 3 保健師 4 MSW 5 介護福祉士
6 社会福祉士 7 医師 8 訪問介護員(ホームヘルパー) 9 その他()

年齢：

- 1 20代 2 30代 3 40代 4 50代 5 60代以上

経験年数：今の職場での経験年数に 、保健医療福祉の現場での経験年数に

- 1 1~2年 2 2~3年 3 4~5年 4 6~10年 5 11年以上

高齢者虐待に関する経験例数

- 1 このケースが初めて 2 5例以下 3 6~10例 4 11~20例 5 21~30例
6 31~50例 7 51例以上

在宅高齢者の虐待防止ケアマネジメント対応事例について

あなたご自身の経験やご意見として記載してください。

複数の事例がある場合は、対応の効果が顕著に表れた一事例に絞ってください。

<事例の概略>

虐待分類 1 身体的 2 心理的 3 ネグレクト 4 性的 5 経済的

虐待状況の特徴、支援のポイント、最も改善した内容など

<基本情報>

A虐待を受けている人の状況

性別： 1 男性 2 女性

年代： 1 40代 2 50代 3 60代 4 70代 5 80代 6 90以上

経済状況・収入： 1 収入なし 2 年金のみ 3 年金プラスその他の収入

ADL自立して、できないこと：当てはまるものすべてに をつけてください

- 1 食事 2 入浴・着替え 3 排泄 4 室内移動 5 歩行(機器使用、人の支えが必要)
6 調理 7 服薬管理 8 金銭管理 9 買い物 10 家事(掃除・洗濯) 11 受診
12 乗り物で外出

障害： 1 なし 2 視覚障害 3 聴覚障害 4 精神障害 5 身体障害 6 難病

障害高齢者の日常生活自立度： 1 J 2 A 3 B 4 C

介護度： 1 該当せず 2 要支援1 3 要支援2 4 要介護1 5 要介護2
6 要介護3 7 要介護4 8 要介護5

認知症の日常生活自立度： 1 2 3 4 H

認知による困難： 1 徘徊 2 混乱 3 失見当障害あり

服薬状況薬の数：1 飲み薬2剤以下 2 3～5剤 3 6剤以上 4 その他の薬や処置が必要
()

医学的問題： 1 病気は特にない 2 病名が1～2 3 病名が3～5 4 病名が6以上
特記事項、主な病名・病状、パーソナリティ、人間関係、生活史の特徴など

B 虐待を加えている人の状況（複数いる場合は主な1人）

性別： 1 男性 2 女性

Aとの関係： 続柄（ ）

住居： 1 Aと同居 2 別居

経済状況・収入： 1 経済的に困窮 2 普通 3 ゆとりあり 4 不明

年代：1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60代
7 70代 8 80代以上

障害：1 なし 2 視覚 3 聴覚 4 精神 5 難病

認知症の日常生活自立度： 1 2 3 4 H

介護度： 1 該当せず 2 要支援1 3 要支援2 4 要介護1 5 要介護2
6 要介護3 7 要介護4 8 要介護5

医学的問題の数：1 病気は特にない 2 病名が1～2 3 病名が3～5 4 病名が6以上

特記事項：パーソナリティ、人間関係、生活史の特徴など

虐待を受けている人の生活状況

住居：1 持家 2 マンション 3 借家 4 賃貸アパート 5 その他（ ）

地域の特徴： 1 都市旧市街地 2 新興住宅地 3 商業地域 4 農山魚村 5 その他

サービス導入： サービス利用なし 介護保険（ ） 医療保険 民生委員 保健師
その他のサービスや社会資源（ ）

家族・親戚、近所付き合い関連図

<虐待発見から支援のプロセス>

<発見>

虐待発見の経路と初期情報の内容

所管の地域包括支援センター・行政、ケアマネジャーによる、事実確認・判断

<初期介入・問題の解明>

最初の介入は、どこ、誰が、どんなタイミングで、どう入ったか

虐待の起きる理由・背景の解きほぐし(生活歴、社会的・経済的な要因を含む)

<支援過程>

ケース会議、チームカンファレンス、全体コーディネート状況

対応と支援方針

所管の地域包括支援センター・行政の役割

具体的な支援：どこ、誰が、誰に、どのタイミングで、どうかかわったか。

困難やトラブル、支援効果が上がらないなどの際は、どう対応したか。

どのような状態や結果になったか

その状態や結果について、虐待を受けている人、虐待をしている人、周囲の人々はどうか評価しているか

<支援チーム>

改善へのキーパーソン： 1 家族 2 近隣 3 縁者 4 その他()

チームの性格： 1 フォーマルなチーム(主催機関) 2 インフォーマル

チーム作りの経緯： 1 チームを作った、2 既存チームで対応した、3 チームが自然に生まれた

関与した機関： 当てはまるものすべてに をつけてください

- 1 地域包括支援センター(直営 委託) 2 居宅介護支援事業所 3 訪問看護ステーション
- 4 訪問介護事業所 5 通所介護事業所 6 認知症高齢者グループホーム
- 7 介護老人保健施設 8 介護老人福祉施設 9 有料老人ホーム・ケアハウス
- 10 行政() 11 病院 12 警察
- 12 その他(具体的に)

<有効と考えられる関わり>

支援が成功した要因、困難を乗り越えたターニングポイント

有効な関わりにおける、所管の地域包括支援センター・行政の役割

このケースで“虐待支援の成功”“再発防止”といえる点すべてに をつけてください

- 1 そのままではいけない状態を、見過ごさない、関わる事ができた
- 2 それ以上のエスカレートは防ぐ事ができた
- 3 支援チームを立ち上げ、協力・共感や社会的なネットワークが機能する事ができた
- 4 一時保護で対応する事ができた
- 5 心理的・身体的・社会的・経済的な問題を、落ち着かせる事ができた
- 6 虐待を解消する事ができた
- 7 関わる中で、擁護者(虐待を行う側)の考えや態度を変容させる事ができた
- 8 成年後見制度や権利擁護(社会福祉協議会の日常生活自立支援事業サービス等)を導入して高齢者の権利を守った

<このケースから、広く参考に供したい点>

虐待事例への関わりを経験して、虐待の早期発見、支援体制づくりや援助計画、虐待防止について、包括支援センターや専門家や社会に伝えたいことや提案を、自由をお願いします。

所属施設の概要についてお尋ねします。

施設の種類：

- 1 地域包括支援センター(直営 委託) 2 居宅介護支援事業所 3 訪問看護ステーション
4 訪問介護事業所 5 通所介護事業所 6 認知症高齢者グループホーム
7 介護老人保健施設 8 介護老人福祉施設 9 その他()

高齢者虐待の事例の年間扱い数 _____ 例()年(前年と比べて 増加 減少 不変)

高齢者虐待に関して連携を取っている機関 当てはまるものすべてに をつけてください

- 1 地域包括支援センター(直営 委託) 2 居宅介護支援事業所 3 訪問看護ステーション
4 訪問介護事業所 5 通所介護事業所 6 認知症高齢者グループホーム
7 介護老人保健施設 8 介護老人福祉施設 9 有料老人ホーム・ケアハウス
10 行政() 11 病院 12 警察 12 その他(具体的に)

高齢者虐待への取組体制、活動開始の時期

- 1 取り組み体制がある 開始時期() アニュアル同封をお願いします。
2 特に取り組み体制はなく、日頃の業務の一環として、所管包括支援センターや行政に相談
3 特に取り組み体制はなく、日頃の業務の一環として、組織内で対応

「事例集」掲載に関するお願い

ご応募いただいた中から「事例集」やケアマネジャー研修に役立てる計画です。掲載内容についての確認などを、メール、ファクシミリ、電話などでご協力いただけるでしょうか。(必要な場合は訪問してヒアリングも対応させていただきます)

- 1 掲載内容についての確認などを、メール、ファクシミリ、電話などで協力しても良い
ご連絡方法をお願いします

お名前 _____

ご希望の連絡方法 _____ メール、 _____ ファクシミリ、 _____ 電話 _____ 郵便 _____

ご住所 _____

電話 _____ eメールアドレス _____

またご応募いただいた方全員にお礼として「事例集」をお送りしますので、送り先をお願いします。

お名前 _____

事例集送り先住所 _____

お忙しい中ご応募ご協力いただき、本当にありがとうございました。